

ジャパン・スノー&アドヴェンチャー・セミナー2011 ～豪州における震災後の訪日観光プロモーション～

シドニー事務所

2011 年 5 月 23 日、訪日観光客誘致を目的とする「ジャパン・スノー&アドヴェンチャー・セミナー2011」(Japan Snow & Adventure Seminer 2011) が、シドニー市内のホテルで開催されました。北海道、長野・新潟、東北の主なスキーエリア、温泉など 13 地区の関係者が、豪州の旅行業者を対象にプレゼンや個別商談を行いました。これは、オーストラリアの旅行代理店が 5 月 22 日に主催したスノー・トラベル・エキスポ 2011 にあわせて JNTO(日本政府観光局)シドニー事務所が開催したものです。

セミナーでは、はじめに JNTO 担当者が、福島第一原発と主要都市との距離関係（札幌 629km、仙台 95km、東京 226km など）と放射線測定値が正常値であることを示すとともに、日本とオーストラリアを結ぶ航空便についても多少の乱れはあるものの、ほぼ通常どおりに運行していることを説明し、今回の参加団体のエリアが安全であることを強調しました。



プレゼンを行う旅行関係者

震災直後とは雰囲気が変わってきています。3 月 26・27 日にシドニー市内で開催された「トラベル・エキスポ 2011」では、出展した日系団体によると、訪問客からは被災状況に対する質問や気遣いが話題の中心となり、観光地として全く影響のない西日本エリアについてさえ、実質的な商談は成立しなかったということです。

また 4 月 20 日に豪州内の旅行業者を対象にシドニー市内で開催された「震災後の日本観光についての説明会」(JNTO 主催)では、日本国内の正確な情報提供を最優先として進められましたが、参加者からは「原発の安全性は誰が保障するのか？」など厳しい質問が出されました。震災に関する惨劇的な映像や写真は各メディアを通して豪州全土で繰返し放映されていたためか、被災エリアには関係なく、参加者の日本全体に対する視線は非常に厳しいように感じました。

これに対し、5 月 22 日の「スノー・トラベル・エキスポ 2011」では、北海道、長野・新潟の主なスキーエリアと温泉のリゾート関係者が、精力的に PR を展開しました。日本の現況を正確に理解してもらえるか非常に懸念されていましたが、イベントの来場者はスノーホリデーを具体的に予定している傾向が強いこともあり、日本ブースへの質問は「お薦めのスキーエリアは？子連れで楽しめる場所は？」という具体的な内容が多く、津波被害や原

発事故など震災に関係する質問は予想外に少なかったとのこと。JNTO 担当者は、実際に日本のリゾート関係者が来豪し出展していることが安心感を与える要因になったと推測しています。

そして「ジャパン・スノー&アドベンチャー・セミナー2011」(Japan Snow & Adventure Seminer 2011)」でも、当地の旅行業者の反応が懸念されましたが、様々な日本関係機関による、交通状況や放射線測定値などの国内状況に関する正確な情報提供の成果か、日本に対する不安や厳しい見方は解消する傾向にあると感じました。また東北エリアを含めた日本からの参加者も同様に、日本に対する不安を和らげることができたという手応えを感じたと語っていました。

訪日観光の主要エリアである韓国、中国、台湾、香港などは、政府間交渉も進み、団体客も戻りつつあるようですが、個人旅行が主体となる豪州では、一般の方々へいかに安全性を伝えるかが重要な課題となっているようです。もちろん日本に居住する豪州関係者からの口コミの安全情報は説得力がありますが、これまでも日本国外からの旅行者に向けて正確な情報発信を継続してきた日本にいるランドオペレーターからの情報も影響力は大きいとされています。

今回参加した旅行業者の間では、悲観的意見もないわけではありませんが、豪州では一般消費者を対象とした正確で信頼性の高い情報発信を継続的にしていくことが重要との見方がなされています。JNTO では大々的な PR、安全宣言が有効とし、今後マスメディアを活用した事業展開を検討していくことを示しています。

(高橋所長補佐 宮城県栗原市派遣)

CLAIR